

(様式2)

学校関係者評価報告書

愛媛県立しげのぶ特別支援学校

学校番号 (50)

評価実施日		令和 5 年 3 月 3 日 (金)	
委員	氏名	所属等	備考
	大野 裕介	障害者支援施設「三恵ホーム」施設長 (学校評議員・学校関係者評価委員)	
	山本 太平	松山城山ライオンズクラブ会員 (学校評議員・学校関係者評価委員)	
	若本 裕之	愛媛県立子ども療育センター所長 (学校評議員・学校関係者評価委員)	
	本田 隆彦	東温市教育委員会教育委員 (学校評議員・学校関係者評価委員)	
	二神 則子	東温市田窪婦人クラブ役員 (学校評議員・学校関係者評価委員)	
	宮岡 宏太	愛媛県立しげのぶ特別支援学校PTA会長 (学校関係者評価委員)	
	西村希和子	愛媛県立子ども療育センター看護部長 (学校関係者評価委員)	
豊田 純子	愛媛県立子ども療育センター生活指導担当係長 (学校関係者評価委員)		

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 明るく楽しい学校にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍においても、先生方が様々な配慮をしながら教育活動を充実しようと努めており、そのことに保護者も理解を示している。教職員の評価が低いのは、もっとできればとの思いがあるのではないかと読み取れる。 先生方は、子どもたちに親しみをもち温かく関わったり、学校行事で貴重な体験ができるよう工夫されたりしている。より一層、明るく楽しい環境や雰囲気づくりに努め子どもたちの満足度を高めると良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 状況に応じた学習方法 (対面、遠隔、集団等) を検討し、体験学習を中心とした学習活動の充実努める。また、ICT機器の活用など個々の実態に応じた学びに配慮し、対応する。 児童生徒会を中心とした様々な活動を計画し、状況に柔軟に対応しながら実施する。 幼児児童生徒の実態に配慮した環境整備を行うとともに、明るい挨拶や楽しい雰囲気づくり、心身ともに安心して楽しく過ごせる学校づくりに努める。
<p>2 一人一人が主体的に学べる学校にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育はなかなか成果が上がりにくい項目だが、評価から徐々に改善が進んでいる様子が伺える。 進路について何を相談すればよいのか分からない子どもたちに対して、じっくりと思いを聞き取る時間を設けるなどの取組をされてはどうか。 子どもたちの評価が低下しているのは、制限された学習状況に不満があるのではないか。しかし、先生方はICTに力を入れている点においては、学習に楽しく取り組めることにつながるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の中に、具体的に各教科の内容及びキャリアの視点など、幼児児童生徒の成長や変化を捉えられる観点や評価規準を記載して、授業を計画・実践することで、幼児児童生徒の「わかった」「できた」という思いを積み上げる。 明確なねらいを持ち、より系統性のある指導を意識して学習を計画するとともに、キャリアガイド教室などの経験を通して話や気持ちを受け止める機会を設けたり、生活や将来につなげていけるように働きかけたりする。 ICT機器の活用においては、一人一人に応じたツールを見だし、活用していけるよう研修内容や方法を工夫したり、校内外における情報交換を密に行い、学習の充実につなげる。
<p>3 安心・安全に学べる学校にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生方が今まで以上に感染防止、危機管理について気配りをされ、努力されていることが読み取れる。一方で、校内の安全整備についての保護者の評価が低い印象を受ける。建物の老朽化や対応する人員数、取組の把握のしづらさが原因の一部として挙げられるのではないか。老朽化や人員配置についての対応は学校としては難しい課題だろうが、取組についての情報発信を工夫していく必要があると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケアへの対応や感染症対策、また、学校環境整備など、これまでの取組を継続するとともに、必要に応じて書類や確認項目なども見直し、一層安全対策に努める。 関係者への情報提供だけでなく、内容に応じて全体に周知したり学校の様子を発信したりして、学校生活を身近に感じ、安心したものになるように工夫する。
<p>4 保護者・地域から信頼される学校にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生方が校内外の研修などを通したスキルアップ、保護者、児童生徒の期待や要望に応えるべく努力されている様子が感じられた。 コロナ禍で進路や相談、PTA活動の評価がやや低いのは、保護者との会話の機会が減少していることが原因ではないかと推測される。子どもの将来については、学校がいくら尽くしても心配の残ることだと思う。少しでも不安や悩みが解消されるよう、これ待以上に相談支援等が充実することを願っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員のニーズに対応した研修を実施し、研修動画や資料を公開するなど研修の機会の確保や振り返りなどへの対応を工夫する。 学校の様子を見ていただける機会を確保するために分散実施などを含め、様々な方法を検討する。 保護者や教職員が意見交換しやすい場を設けたり、進路や子育て等への悩みへの相談が充実するような期間、場所の設定を検討する。
<p>5 業務・改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTの活用や業務の見直し等を積極的に行い、業務改善に取り組んでいる意識が感じられる。 全ての項目が昨年に比べて少しではあるが向上しているのは、改善が実感できるようになっているのではないか。働き改革が前進するよう願っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 会議等はオンラインを活用しながら、実施方法を見直して今後も効率化を図りたい。各業務も効果的・効率的になるよう、内容の見直しや精選を検討し、働き方改革に取り組んでいく。 定時退勤日や学校閉庁日の設定を継続し、リフレッシュできる体制をとり、全ての教職員が健康に働ける職場環境を整える。